

## 【NEWS RELEASE】

2019年8月30日

各 位

株式会社三井住友銀行

株式会社学研ホールディングスに対する「ESG/SDGs評価」に基づく  
シンジケート・ローンを実施

株式会社三井住友銀行（頭取 CEO：高島 誠）は、株式会社学研ホールディングス（代表取締役社長：宮原 博昭）に対し、「ESG/SDGs評価シンジケーション」における「ESG/SDGs評価」に基づくシンジケート・ローンを組成いたしました。

本件は、株式会社日本総合研究所（代表取締役社長：谷崎 勝教）と弊行が作成した基準に基づき、株式会社学研ホールディングスに対して行った「ESG/SDGs評価」の趣旨に賛同頂いた金融機関によって組成されるシンジケート・ローンとなります。

今回対象となりました、株式会社学研ホールディングスに対する取組に対する評価結果は、環境側面（E）・社会側面（S）及びガバナンス側面（G）すべてにおいて高い水準であると判断され、サステナビリティに向けた企業経営において、良好な取組と情報開示を実施されているとの評価になりました。

特に、ESG及びSDGs達成に向けた取組では、以下の内容が高く評価されました。

- E：環境問題への意識を高めるテーマ（「異常気象」、「外来生物」など）を題材にした図鑑の発行や、実地での環境教育などを通じて、次世代を担う子ども達に対して環境について考える機会を提供していること。
- S：「学研版地域包括ケアシステム」として多世代が支え合いながら暮らし続ける街づくりや、リカレント教育の提供を通じて、社会保障費の削減や女性の社会進出等の課題解決に取り組んでいること。また、小学生向けの放課後教育サービスをインドネシアにも展開し、現地の小学生の学力向上などに貢献していること。
- G：事業活動を通じて持続可能な社会の実現を目指すため、学研グループの重要課題としてマテリアリティを特定（次世代人財の育成、人生100年時代の生涯学習推進、地域における心ゆたかなシニアライフ支援等）していること。また、CSRレポートで経営トップが、教育・医療福祉分野の事業を通じて社会問題の解決を図り、グループ全体でSDGsの目標に貢献する姿勢を明確にしていること。
- SDGs：事業活動を通じて貢献するSDGsの重点目標として、「目標3（すべての人に健康と福祉を）」、「目標4（質の高い教育をみんなに）」、「目標11（住み続けられるまちづくりを）」を設定し、CSRレポートやWEBサイトなどで情報開示していること。

三井住友銀行では、「ESG/SDGs評価シンジケーション」およびFTSE RussellのESG評価を踏まえた情報提供を行い、持続可能な社会および市場の形成に一層貢献を行ってまいります。

以 上

このニュースリリースは、投資や勧誘を推奨することを目的としたものではありません。